

**留学先国名** : アメリカ

**留学先学校名** : Bellevue College

**留学期間** : 平成 27 年 3 月 28 日 ~ 平成 28 年 3 月 23 日

私はアメリカワシントン州の Bellevue College にて 1 年間の留学をしました。現地では IBP(International Business Professions)という英語とビジネススキルの向上を目指す留学生向けのプログラムを受講しました。一年間は大きく分けて 4 クォーターに分かれており、1 クォーター目は英語や基礎ビジネスの授業、2、3 クォーター目は実際に現地学生や他の留学生とともにカレッジの授業を受け、4 学期目は現地のコミュニティ新聞 NPO にてインターンシップを行いました。以下は、どのような授業を受けたかをリストアップしたものです。

#### 1 学期目

Introduction to Business : 基礎ビジネス

ビジネスの基本的なスキル、知識を学ぶ。グループで架空の商品を考え、どのように売るかを、クラスで学んだことと絡めてプレゼンする。

Oral & Written English : カレッジレベルの授業への準備のための英語クラス

ビジネスシーンにおける手紙、メールの書き方、電話の対応、会議の進め方等を学ぶ。グループで、ある事業を立ち上げたという前提でパンフレット等を作り、宣伝のためのプレゼンを行う。

Exploring Contemporary Issues : 現代社会問題への理解を深めるクラス

アメリカや世界で話題となっている問題について考える。全部で 3 回、個人、ペアで特定のテーマに対して賛否どちらかに立ってプレゼンを行う。私が取り扱ったテーマは、マリファナの合法化、人工中絶問題、売春・人身売買問題について。

#### 2 学期

Introductory College Reading and Writing : 英作文の基本的な書き方

英語のエッセイにおける基本的な文章構成、アカデミックなエッセイを書く際のフォーマットやルールを学ぶ。学期を通して 5 個ほど、実際にエッセイを書く。

Microeconomics : ミクロ経済学

個人や企業など、個々の経済主体がどのように経済活動を行うのかの基本的な理論を学ぶ。

### 3 学期

#### Language, Culture and Society : 言語学

言語学の基本的な知識を学ぶ。また、課題の一環として、ESL(English as Second Language:第二言語として英語を学ぶ人のためのクラス)の初級レベルのクラスで教員のサポート等のボランティアを行った。

#### International Political Economy : 国際政治経済学

国際政治と国際経済の基本的な理論とともに、近現代の世界経済・政治の動きを学ぶ。

また、2、3 学期を通じて、最終学期のインターンシップの準備のための授業を受講。レジュメやカバーレターの書き方、面接での受け答えの仕方などを学ぶ。

その他学業以外の活動として、

- ・日本語と英語の会話クラブの代表を友人と共同で務め、クラブ内容の話し合い、イベント企画などを行いました。
- ・兵庫県とワシントン州は姉妹都市関係であり、兵庫県企業のワシントン州でのビジネス進出を支援する団体にてボランティアを行いました。アジア食料品店での兵庫県産食材フェアにおけるセールス、日系イベントにおけるブースでの日本文化紹介等。
- ・ワシントン州にかつて日本人・日系アメリカ人が多く住み、今もその名残があるということを日本人、特に日本人留学生に知ってもらいたいという想いのもと、日系アメリカ人の方々との講話会を企画・開催しました。

以下、私が 1 年間の経験によって得たこと、感じたこと、苦労したことなどを記します。

今回の留学の以前にも、カナダに 1 ヶ月短期留学したり、大学でも英会話サークルに所属していたりしたので、最低限の英語力は身につけた上での留学でしたが、それでも英語面で苦労することは多々ありました。まず、現地学生と一緒に授業を受ける際には、アカデミックな内容の講義、テキストの読解、エッセイ等は、全員が英語をきちんと使える前提で課されるので、ネイティブスピーカーと同じ土俵でやっていかなければなりません。聞き取りは慣れてくればかなりできるようになってくるのですが、リーディングはどうしてもネイティブのレベルには到底敵わないので、毎日のように課されるテキストを読んでくる宿題には非常に苦労しました。また、私が通っていたカレッジでは 30 人程度の少人数クラスがほとんどで、必然的に学生間または学生と教員とのコミュニケーションが多く求められ、発言する機会が多いことが日本の大学との大きな違いだと感じました。授業中に隣や周りの人とのディスカッションを求められることは日常茶飯事で、教員によってはその際の積極性を成績に加味することも多いです。最初は英語力の不安から、なかなか発言することができなかったのですが、ずっと黙っているわけにもいかないので勇気を出して発言すると、完璧ではない英語でも周りの人たちがきちんと意見として聞いてくれる姿勢が伝わってきました。色々な国

の様々なバックグラウンドを持つ人たちとともにディスカッションを行うことが常識となっているアメリカでは、英語が完璧でなくても意見を述べている限りはそれを受け入れようとする土壌が整っているようでした。

もう一点、アメリカでの生活で感じたことを挙げるとすれば、多様性についてです。アメリカは多様性に富む国だということは留学前から知っていましたが、いざ現地での生活を始めると、思っていたよりもさらに多様な人々がいるということに驚きました。中でも、私はアジア系アメリカ人、特に日系アメリカ人に興味を持ちました。自分たちと同じルーツを持つ人がかつてここに移り住み、その子供や孫、さらにその先の世代の人が今もなおアメリカで生活しコミュニティを築いていることを知りました。そして、彼らが戦時中に体験した暗い歴史も含め、そういったことを知らない、また意識していない日本人が多いということに、自戒も込めて問題意識を持ちました。それを知ることで、自分たちと同じルーツを持つ人たち、あるいは自分たち自身が、アメリカの多様性を構築している大きな要因の一つであるということを知るために、上記のようなイベントを開催しました。これは、日本人留学生である自分たちだからこそできたことではないかと自負しています。

まとめると、まずは授業を通じて「発言をすること」の重要性を肌で感じました。それから、「常にアンテナを張ること」で、日系アメリカ人についての発見や問題意識を感じることができました。そして、「日本人として何ができるかを考えること」で、日本人である自分たちだからこそできる、日本人と一緒に日系アメリカ人に考えるイベントを開催できました。以上3つの「」が自分の留学におけるテーマで、これから留学する人たちへのアドバイスであり、留学において、さらに真のグローバル人材になるために必要なことではないかと思えます。〈了〉